

東海大学機友会々報

東海大学機友会事務局
 湘南校舎 動機事務局
 〒259-12 神奈川県平塚市北金目1117
 ☎ 0463(58)1211(内)4321
 印刷 信友印刷株式会社
 ☎ 03(444)2481(代)

会員名簿完成!!

発会頭より念願であった会員名簿が完成し、昭和六十一年二月発行しました。この名簿は昭和三十九年度第一期卒業生以来五千有余の同窓生相互の友情を深めて連帯の絆を強くし、また、同窓生の社会的な活動の場がさらに拡がるようにとの願いをこめて作成しました。

表紙はスカイ色のレザック紙を用い洒落た装丁で写真のように落ち着いた感じになります。B5判で約百八十頁の大部冊子で表紙を開くと懐かしい札幌、福岡、代々木および湘南の各校舎、実習工場、実験実習風景などカラーおよび白黒のグラフィック写真が巻頭を飾ります。続いて目次、機友会々則、機械科年表の後に、特別会員名簿(教職員住所録)次に、正会員の住所録と続きます。



発会頭より念願であった会員名簿が完成し、昭和六十一年二月発行しました。この名簿は昭和三十九年度第一期卒業生以来五千有余の同窓生相互の友情を深めて連帯の絆を強くし、また、同窓生の社会的な活動の場がさらに拡がるようにとの願いをこめて作成しました。

機友会の財務について

会員の皆様にはますますご健勝にご活躍のことと存じます。本会も発足して五年を経過いたしました。このあたりで本会の財務について、担当幹事として経過報告をし、若干の所見を述べさせていただきます。ご意見がございましたら、二千元会費はなごりなりました。

一、会費の納入状況

発足以来今日まで、本会の事業および運営のための諸経費は会費と広告掲載料によって賄ってきました。このうち広告掲載料は、後述のように会報・名簿の発行にもなっており、その都度得られる収入であり、会員諸兄の負担による会費が主たる財源であることは申すまでもありません。そこで会費の納入状況をまとめると別表のようになります。これをみますと現在までに、全員の約一八%にあたる一、〇

会費納入状況 (61.3.31現在)

卒業後納入(56.11~60.3)	372人	2,354千円
卒業時納入(56年度)	224	499
〃(57年度)	145	462
〃(58年度)	164	642
〃(59年度)	103	600
〃(60年度)	117	790
合計	1,125人	5,347千円

二、会計の収支状況

次にこれまで支出した会の事業および運営のための諸経費の概略と会計の収支状況について述べます。

第一回の幹事会において、初期の活動方針として組織の確立と情報提供に主力をおくことが決められました。これに基づき二期目の後半にあたる今日までに、会報一、二、三号および会員名簿初版の発行等の事業を行ってきました。そのための事業経費の内訳は、会報一回分五五〇〇部の発行経費(印刷代等)が約三〇万円、発送経費(郵送料等)が約三三万円、これまでに一、二号と三号の一部を発送済みです。会報分として約一七〇万円の支出になっております。名簿はとりあえず一、〇〇部を印刷しましたが、この経費は見本の印刷代、活動費も含めて約二八〇万円でした。また総会(二回)、代議員会(二回)、幹事会(五回)、事務局

三、財務の方針

次に財務を担当するに当たっての方針について、前述の現状をふまえて所見を述べさせていただきます。

まず、予算の規模と会費の金額は事業内容に見合ったものであるべきだと思います。会の活動が今後とも現状の範囲内であれば約二〇〇万円の現在の預金は、広告料を回収するまでの印刷代等に当てる回転資金の必要性を考慮すれば適正な額であり、予算の規模については一応妥当な水準にあると言えるでしょう。

しかし会費の金額については早々と一万円、五千円会費を納めていただいた方々に対しては、それに合わせた活動が十分に行われていない面があるかも知れません。ただ同窓会としての性質上、設立初期にあたる現時点では卒業生をすべて会員と見なし、広く結果を呼びかけることが大切だと思います。そのためにも必要な通信費をはじめとした諸経費を少数の方に負担していただいているわけで、なにとぞこの点をご理解いただき、いままじ長い目で見ていただければ幸いです。いずれにしても、会の事業内容を豊かにすることが会費の有効な運用につながると思われます。

二番目に、会の事業をさらに発展させるためには当然予算の規模を拡大せねばなりません。したがって、収入源である会費納入率を高めることが財務の

学内通信

新任の先生紹介

動力機工学科に幸尾治朗先生、齊藤宗三先生、鈴木曠二先生(札幌校舎)および川島康先生、また第二工学部機械工学科に福迫達一先生が新たに着任されました。

幸尾治朗教授



略歴

昭和二十一年九州大学工学部工業力学科(現航空工学科)卒業、工学博士、川南工業香焼島造船所、運輸省運輸技術研究所、科学技術庁航空宇宙技術研究所STOL(飛鳥)プロジェクト推進本部長を経て、昭和六十年四月より東海大学に勤務、運輸省航空事故調査委員会委員を兼務、専門は航空工学。

齊藤宗三教授



略歴

昭和二十二年東京大学工学部機械工学科卒業、工学博士、(株)新潟鉄工所常務取締役、ニイガタディーゼルサービス(株)社長を経て、昭和六十一年四月より東海大学に勤務、専門はディーゼル機関、過給機の開発および排気エネルギー利用の研究

福迫達一教授



略歴

昭和二十七年東京理科大学理学部物理学科卒業、三十二年東京大学大学院治金学専攻修了、工学博士、東京大学講師、横浜国立大学教授、大阪大学工学部教授を経て、昭和六十一年四月より東海大学に勤務、専門は金属製造工学および機械材料工学。

鈴木曠二助教授



略歴

昭和四十四年東京大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了、工学博士、日産自動車(株)、東京大学宇宙航空研究所研究生を経て、昭和六十一年四月より東海大学札幌校舎動力機工学科勤務、専門は機械力学および生物工学。

川島康講師



略歴

昭和五十八年東京工業大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了、工学博士、東京工業大学工学部助手を経て、昭和六十一年四月より東海大学に勤務、専門は高圧発生技術。

以上、本会の財務について簡単に述べました。これからも色々な問題を幹事会で話し合っただけで済ませず、多くの方々の意見を参考にしたいと思っておりますので、ご意見やご質問は事務局までご提言下さい。

おわりに、広告掲載にご協力いただいた企業の各位に厚く御礼申し上げますと共に、今後とも財務活動に対する会員諸兄のご支援を切に期待しております。

幹事 山本秀隆(三十九年度卒)

果は本号に掲載の五九年度分を含めて過去三回にわたって会報紙上で行ってきました。会の運営が一応定着したため今回はじめて年度末で締めることができましたので、次回からは会計年度(四月一日~三月三十一日)ごとにとまとめて報告いたします。

なお運営経費のうち、封筒への詰め込み作業などのアルバイト料、会報の原稿料、会議の交通費等はほんの薄謝程度のもので差上げておりますが、これらに

座談会

萩三二副学長を囲んで



萩三二副学長

出席者

- 萩三二副学長
- 小林 隆 (S40年卒、富士通株)
- 河西正彦 (S42年卒、レグセル工業株)
- 和田英孝 (S47年卒、(株)潤工社)
- 青山和夫 (S54年卒、三菱重工業株)
- 大上悦夫 (S60年卒、日産自動車株)
- 飯島敏雄 (S41年卒、東海大学) *司会

去る、昭和六十一年一月二十五日(土)代々木校舎において、萩副学長を囲んで座談会が開かれました。その時の様子を再現し、会員の皆様にお知らせします。

まず、岡田隆夫氏(昭和三十九年度卒)の開会の辞に始まり、司会、飯島敏雄氏の進行により、萩三二副学長を始め小林隆氏、



萩三二先生を囲んで

河西正彦氏、和田英孝氏、青山和夫氏、大上悦夫氏、以上出席者諸氏の自己紹介があり、座談会へと進んでいきます。

(以下敬称略)

飯島 機械工学科も昭和四十年に第一回卒業生が生まれてから昨年の昭和六十年で二十一年目の卒業生を送り出していることになりました。



小林 隆氏

本日は第一期生から五年おきに卒業された皆さんに、お忙しいところお集まりいただき、萩先生に大学のことを色々お聞きし、また、機友会の今後の発展についても話し願いたいと思います。

東海大学の歴史

技術者の寄付で財団

飯島 今年機械工学科二十五周年にあたりますが、萩先生、本学の歴史をお話し願えますか

萩 昭和十七年に「科学技術者による独自の理工科大学の建設」ということで、技術者の寄付で財団ができ、十八年、航空科学専門学校として発足し、十九年に発足した電波科学専門学校と合わせて二校に、終戦の二十一年には、この二校を合併して東海科学専門学校となり、二十一年、日本で最後の旧制大学として、東海大学が発足しました。



河西正彦氏

その後、学制の変更で、昭和二十五年新制東海大学が生まれ、苦心の末、三十年には、清水より代々木に移転、当時学生数百二十五名でした。三十六年頃より学生数も増え、現在は、九学部・大学院・七校舎で学生数三万一千名、教員千三百名、職員二千六百名(看護職員含)という規模になっています。

現状は

科学研究費二億二千万円、上場企業一九五八名

小林 私ども(一期生)が卒業するころは湘南校舎に大きな講堂(現二号館)ただ一つだけでした。現状とは雲泥の差ですね。そこで、東海大学の現状をもう少し詳しくお聞きしたいだけですか。

飯島 規模はおわかりだと思えます。東海大学は原君、山下君で有名ですが(笑)、昭和五十年頃から研究を活発にしよう、就職もよくしようということになり、部充実に力を入れるようになり、六十年科学研究所(文部省は二億二千万円認められました)の額は、私学では慶応・東海、早稲田の順で二番目、国立を含めると十二番目になります。一方、就職の方は、五十二年に上場企業三百名であったのが、

今年千九百五十二名(早稲田・日大・東海・明治・中央の順)と上昇気流に乗っている状態です。

大学の新しい計画・ヴィジョン

四月より法学部

札幌教養部四年制に

福岡教養部短期大学に

四月より法学部

萩 四月より法学部(定員三百名)ができ、また昭和六十三年には、札幌教養部と北海道東海大学旭川校舎と一緒に、理工学部・文系学部の四年制の北海道東海大学に、福岡教養部は短期大学として六十四年開校、沼津の海洋学部教養部は、六十二年に清水と一緒にするという計画が進んでいます。これらと共に国際交流を深めるということ、国際化も積極的に進めて行きます。



和田英孝氏

大上 国際交流という事では、東海大学丸による海外研修が毎年行なわれていますね。

萩 学生に海外を実際に見てもらうため二月末から四月初めにかけて諸国を廻りながら洋上研修を行なうものです。また、語学(英・露・西・仏・中国語)の勉強のため、長期(一年間)短期(二ヶ月位)で海外大学と提携を結び、研修を受けられるようにもなっています。それと、二年契約(長くなると日本語の方)がうまくいっている(笑)で講師として外人教員を採用して語学の担当をしてもうっています。

飯島 「スポーツ医学センター」という計画もあるようですが、

萩 「スポーツ医学センター」という事で、体育学部・医学部、工学部・理学部の先生が集まり、

スポーツを科学的に(リハビリも含めて)研究を進めていこうというもので、六十年九月頃湘南校舎の中に作りたいたいという計画があります。

大上 他の研究ではどうですか、たとえば、情報技術センターが有名で誇りに思っていますか。

萩 全学組織として、総合研究所機構があり、その中に開発研究所(ここでは、地震の予知・計測の研究など)があり、情報センターでは、当センターが手がけてきたランドサットデータのアナログ・デジタル画像処理システムを使用し地質調査・地図の作成等の研究が行なわれています。また、東海大学衛星情報ネットワークをベースとする高度複合情報ネットワークシステムの整備計画が進められています。工学部系ですと産業科学研究所が中心となり、風車の研究、クリーンエンジンの研究、ロボット関係の研究等、また、医学部と共同でガンの制圧研究も行なっています。文学部系では発掘(ステツケア遺跡)研究です。

工学部の現状

全学生数の約四三%が工学部に

和田 私の在学中とは大分変わってきていると思うのですが、工学部の歴史を踏まえて現状をきかせて下さい。

萩 工学部の歴史は大学の歴史であり、現在全学生数の43%位で、一万三千三百名の学生、第二工学部は七百名の学生数です。また現状は、湘南十六学科、札幌、福岡七学科、それに第二工が代々木校舎にあります。今



青山和夫氏

大上 機械工学科が昭和三十六年に発足していますが、実は私その三十六年生まれです(笑)、そこで、機械工学科の大きな流れをきかせて下さい。

萩 昭和三十六年に機械科が発足し、その後、動力・生産・精密専攻に分かれ、さらにその後専攻が学科学科となりました。と同時に、福岡・札幌に動力・生産の教養部ができました。第二工学部は、昭和三十七年に夜間部という形で工学部の二部制だったものが、三十八年から第二工学部の機械工学科となりました。現在募集学生数は、動力(湘二・札五十五・福五十)生産(湘百・札五十・福五十)精密(湘百)、第二工機械(代六十)の規模です。

小林 私達の時代と今の時代では、カリキュラム等の内容が大分変わったのではないですか。

萩 コース別の教育ということ、基礎で習っていることを深

12号館が建設中で、機械系三学科・光・経営の五学科の研究室、実験室、製図室、図書館、物理実験室が入ります。それに伴ない六十二年四月より、工学部が近くに集結する予定です。

機械工学科三十七年第二工学部として発足



大上悦夫氏

青山 工学部としての新計画はどのようになっていますか。

萩 五十二年より新しい教育をしようとしてコース別に分けたり、エレクトロニクス化に伴ない、工学部全体としてコンピュータ教育、電子の応用研究を始められています。

大上 機械工学科が昭和三十六年に発足していますが、実は私その三十六年生まれです(笑)、そこで、機械工学科の大きな流れをきかせて下さい。

萩 昭和三十六年に機械科が発足し、その後、動力・生産・精密専攻に分かれ、さらにその後専攻が学科学科となりました。と同時に、福岡・札幌に動力・生産の教養部ができました。第二工学部は、昭和三十七年に夜間部という形で工学部の二部制だったものが、三十八年から第二工学部の機械工学科となりました。現在募集学生数は、動力(湘二・札五十五・福五十)生産(湘百・札五十・福五十)精密(湘百)、第二工機械(代六十)の規模です。

あらゆるニーズにお応えする鋭角の頭脳集団!! (人材募集中)

solc 株式会社ソイツク

- 情報機器システムの調査研究及び開発受注
- アプリケーションソフトの開発及び運用
- オンラインリアルタイム アプリケーションシステムの設計受託
- 制御システム(電力・計測・データ通信等)の開発
- 各種ミニコン使用システムの開発

〒150 東京都渋谷区東3丁目15番5号(AYビル)
 ☎(03) 409-7232(代) 代表取締役 大原順夫(昭和43年度卒)

卒業生の声

卒業式を目前にして

佐藤正行
(昭和六十年度卒)

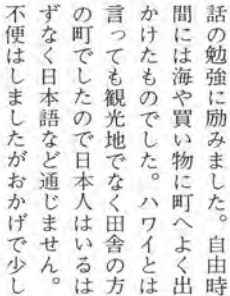


東海大学での四年間を振り返ってみると数々の出来事が頭の中を横切っています。その中でも忘れようとしても絶対忘れられない三つの思い出があります。

一つは、一、二年次を過ごした札幌校舎のことです。私は一、二年次を札幌、三、四年次を湘南と二つの校舎で学生生活を送ったわけですが、今思ってみると札幌校舎での二年間は大変楽しいものでありました。山上に校舎が二つと体育館、グラウンドの向こうは又山、学生数も約七百人お粗末なものです。学校へ行くにも山登りのようです。冬は特に酷く雪が積もり、道は氷と雪、時には吹雪もあり学校へ行くまでが「苦労」のためかよく学校を休んだ者もいたようです。しかし校舎も小さく人数も少ないこともあり、科学年を問わず又先生や学校職員の方々まで数多くの人達との出会いがありました。時には先生のお宅まで押しかけテストの事を聞いたり、酒を片手に相談に乗ってもらったことまでありました。もちろん卒業の方も生易しくなく、レポート、課題も多く友人達と集まったりは朝まで頑張ったものであります。それに学園祭の実行委員にもなりました。本当に色々な事があった二年間でした。

基礎が大切

林 正順
(第二工学部機械工学科 五八年度卒)



諸先輩方が築いてくださった機友会に入会させていただくわけですが、多面にわたるこの会を大いに活用させて頂きたい。この会を通し諸先輩方との新たな出会いも期待しています。そして共に東海大学工学部動力機械工学科の発展に努めていきたいと思っております。

二つめは、その札幌時代の一年次の夏休みに初めてアメリカに行ったことです。東海大学の短期留学制度を利用してハワイ大学ヒロ校舎に行ったのですが、約一ヶ月間毎日大学に通い英語の勉強に励みました。自由時間は海や買い物に町へよく出かけたものでした。ハワイとは言っても観光地でなく田舎の方の町だったので日本人はいるはずなく日本語など通じません。不便はしましたがのおかげで少しは英会話が上達したようでした。友人も何人か出来たし、少しはアメリカを感じ取れました。帰る日が迫ってきた時は、どうすれば日本に帰らずにこのままここに留まることが出来るか深く考えたものでした。

在学中の思い出・結婚しました

亀山副夫
(第二工学部機械工学科 五七年度卒・旧姓金原)



私が代々木の小さな門を出たのは、3年前です。私が入学した頃の第二工は、今よりもかなり少ない学生数でした。出席する学生が2人3人という授業が、ざらにあり、そこで教壇に立たれた先生方の御苦労には頭が下がる思いです。

このように、苦しくも楽しい思い出を作れたわけですが、この裏には先生方、先輩方の時には厳しく時には優しい数々の御指導があったことは隠せません。心から感謝しています。又数多くの友人との出会いも助になりました。本学科を卒業するにあたり、

在学生の声

阿部絵美
(動力機械工学科一年生)

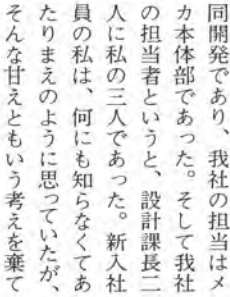


私達は、総合大学であることと雄大な自然環境に魅せられて東海大学に入学しました。そして女だてらにエンジンのことをやりたいと思つて学科を動力機械に決めました。入学式の日、工学部の人の多さと女子が少数なのにびびり、学科別ガイダンスでは学科で私を混せて2人

き、どのようなことをこれから行なっていくのかまだ未知の部分だらけであった。そんな私も三ヶ月の現場組立実習が終了配属先が決定した。希望通り設計業務に決まったがはたして設計が出来るのであるのかという不安は、ぬぐえなかつた。私のついた仕事は、米年度に向けて新機種の開発であった。この仕事は他社との共同開発であり、我社の担当はメカ本幹部であった。そして我社の担当者とすると、設計課長二人に私の三人であった。新入社員に私の私、何にも知らなくてあたりまえのように思っていたが、そんな甘いという考えを棄てなければならぬのである。入社時よりすぐに設計をさせてもらえるのに、そんな甘い考えでは、なにも出来ないと思つたからである。現実には何も知らないから、まずはネジの大きさから知らせて図面に向かう毎日であった。設計といっても私達の場合、自分達で試作組立を行ない、不具合点を設計にフィードバックしていくのである。そういう時に便利なのは自分で工作機械を使用できるかどうかである。一度でも使用したかどうかでちがってくるのである。又、実際にその機械を使用することによって、現実に行われるかどうかを身をもってわかるのである。つまり、学校で勉強、体験したことは、直接仕事に役に立つということが少ないかも知れないが、それが基礎になつて、役に立つということの大切さを身をもって感じ、勉強はこれから本番だと思つた今日この頃である。

動力機械工学科にアイドル誕生!!

私達に愛の手を



私達は、総合大学であることと雄大な自然環境に魅せられて東海大学に入学しました。そして女だてらにエンジンのことをやりたいと思つて学科を動力機械に決めました。入学式の日、工学部の人の多さと女子が少数なのにびびり、学科別ガイダンスでは学科で私を混せて2人

き、どのようなことをこれから行なっていくのかまだ未知の部分だらけであった。そんな私も三ヶ月の現場組立実習が終了配属先が決定した。希望通り設計業務に決まったがはたして設計が出来るのであるのかという不安は、ぬぐえなかつた。私のついた仕事は、米年度に向けて新機種の開発であった。この仕事は他社との共同開発であり、我社の担当はメカ本幹部であった。そして我社の担当者とすると、設計課長二人に私の三人であった。新入社員に私の私、何にも知らなくてあたりまえのように思っていたが、そんな甘いという考えを棄てなければならぬのである。入社時よりすぐに設計をさせてもらえるのに、そんな甘い考えでは、なにも出来ないと思つたからである。現実には何も知らないから、まずはネジの大きさから知らせて図面に向かう毎日であった。設計といっても私達の場合、自分達で試作組立を行ない、不具合点を設計にフィードバックしていくのである。そういう時に便利なのは自分で工作機械を使用できるかどうかである。一度でも使用したかどうかでちがってくるのである。又、実際にその機械を使用することによって、現実に行われるかどうかを身をもってわかるのである。つまり、学校で勉強、体験したことは、直接仕事に役に立つということが少ないかも知れないが、それが基礎になつて、役に立つということの大切さを身をもって感じ、勉強はこれから本番だと思つた今日この頃である。

環境創造のパイオニア《創業1901年》

須賀工業株式会社

大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL .06-441-5171(大代表) 〒550
東京都台東区池之端2丁目9番7号 TEL .03-823-1211(大代表) 〒110

一年中 秋のすがすがしさ!

きれいな空気と水は貴重な資源。とくに都会では地域ぐるみで守りぬかねばならないものではないでしょうか。私たちが活動するための「空気」と「水」いつもフレッシュであってほしいものです。

優良物件、多数

良い物件ほど動きは早いものです。情報の質の高さを誇っている三井のリハウスだから、常に新鮮な生きた情報をご紹介します。この紙面に掲載の物件以外にも好物件は各種多数そろっています。いつでもお気軽にお問い合わせください。

住みかえネットワーク

三井のリハウス

武蔵小金井店
小金井市本町2-6-7 〒184
ベガスマンションビル2F
〈仲介〉東京都知事(3)第36734号
(社) 全日本不動産協会会員
吉祥寺住販(株)
☎(0423)85-5931

ネットワークの力

首都圏に60店舗を持つ三井のリハウスネットワークだから、情報の質も巾も違います。ネットワークの力をもってすれば、ご希望に合った物件探しも、お住まいの買い手探しも、スピーディ。ベテランのリハウス営業マンが、懇切丁寧にお手伝いさせていただきます。

化はありません。でも時々下宿の人達がうらやましくなる時があります。あと、サークルに入っているのが帰りが遅くなるのが困るくらいです。それと教科書が重いので軽い教科書になってくれればとてもうれしいです。私自身のこれからの抱負等もありませんが、あまり大きなことを言って来年度2年生生じやなかつたら恥しいのでこの辺で終りにさせていただきます。

とにかく、知らないことだらけの私達に諸先生および級友の皆様のやさしい愛の手を！



皆さんよろしく

石井寿江

(動力機械工学科一年生)



私は、この学科に二人いる女の子の内の一人です。女の子が少ないのは覚悟していましたが、まさか二人しかないなんて驚きました。私はもし阿部さんがいなかったら、きっとさびしい日々をおくっていたと思います。なぜなら入学して約一年がたってしまったのに、あいかわらず私たちがすわった席の前後など誰もすわろうともしません。私たちが受験した年は、赤本によると一般入試女子は、三人受けて二人受かり一人入学

会費納入者

十年会費

(39年度卒) 稲葉正通・井上千季・岩崎克彦・遠藤和男・遠藤国正・大島守之・岡田隆夫・小滝博邦・小林隆・桜田亮典・執行元広・下田善明・菅谷健・千秋如夫・高橋紘・西村清彦・平井弘三・細井清忠・堀江高文・村上俊太郎・森武士・八雲隆夫・山本秀隆・横井信郎・横溝勲・梅原祐介・浜畑賢吉・藤田光男 (40年度卒) 浅沼恒・川辺裕・中島伸之・星川公一・松村安啓・森本輝美・藤井恒亮・伊藤昌夫・長谷川勝・飯島敏雄・浜田洋介 (41年度

卒) 奥野重男・康井義明・小金沢清春・杉元博・仲尾益幸・水野智章・石井健二・岩堀邦男・上村博人・河西正彦・茅野晴勇・宮川一光 (42年度卒) 磯道康夫・大森健一・小川均・川俣幸男・黒田基彰・畑野裁彦・藤森昭夫・山根佳彦・荒船宏彰・谷汎 (43年度卒) 阿部正宏・大原順夫・加藤博巳・亀田良夫・杉浦詔男・五十嵐健夫・宮下博明・小池和保 (44年度卒) 渡辺康夫・柏手良明・関口壮一・溝田富男・柳川雅春・水口直男・牛山晃男・内山皓・佐々木重男 (45年度卒) 玉浦泰成・近藤美・榎本道雄・高木康彦・星野

祐一・山根昭夫・市川博 (46年度卒) 宇敷進・原清久雄・石黒哲夫・二瀬克規・森卓支・円能寺久行・牧野仁・坂井重義 (47年度卒) 乾猛年・橋本道夫・吉水信・会田金江・山口則雄・原秀夫 (48年度卒) 大野芳嗣・鈴木正博・仲林久夫・宮坂正秀・灘光陽・堀田和成・竹本知博・丸山静男 (49年度卒) 北浜俊幸・馬場正治・碓智明 (50年度卒) 阿部元博・小杉伸一・古田治・山本浅夫・村沢務・山岸章 (51年度卒) 品田敬一・矢萩清一・米沢義之・松下智行・森常信・内藤孝・嶋村浩次・朝倉敬一・鈴木豊彦・長橋英一・古本葉一・湯浅好一・齊藤裕紀 (52年度卒) 山崎正男・鈴木浩文・藤本武司・大野恭平・高西利明・鳴海信成 (53年度卒) 大矢暁・福村武夫・青山和夫・荒博



五年会費

(39年度卒) 奥川朋高・佐々木彰・佐藤英昭・奥準一・渡辺啓 (40年度卒) 大森昌一・小泉金一郎・杉本恵・池田康彦・仲田武志・森下忠衛 (41年度卒) 稲木義晴・井上元雅・岩田育雄・榎本重雄・岡正弘・菅原襄・中村岑幾・藤井一征・鈴木良幸・保坂忠彦 (42年度卒) 伊藤健一・金沢龍助・松本金治郎・小山田孝夫・弓野崇 (43年度卒) 磯和男・菅沼一公・菅森幸・中田和義・矢作常正・島山芳直・小林利也・萩原衛 (44年度卒) 市川雅司・松下保雄・奥脇鉄也・篠田明夫・新名博・古川武男・横路美亀・竹内生公 (45年度卒) 串田賢忠・実藤和致・星加惠光・船瀬孝子・金丸茂則 (46年度卒) 相馬典夫 (47年度卒) 羽原誠・宮内和夫 (48年度卒) 小宮孝司・山田康二・山野和人・高橋哲夫 (49年度卒) 菅沼

俊夫・滝口士郎・鳴海和彦・坂井三 (50年度卒) 柴田修・高幣信彦・唐川三徳・関忠好・安江正光・山崎春夫 (51年度卒) 越川康雄・登倉隆夫・吉岡利治・中村憲明・後口能成・後藤年治・佐藤孝昌・常山潤 (52年度卒) 伊東明彦・門脇真・新倉裕之・菅野昭則・藤巻篤雄・森本光車・遊佐憲一・新山時弘 (53年度卒) 山口修一・豆田静信・山路康夫・高津佳人・大山浩正 (54年度卒) 若木順二・中山稔・大沢充典・茂木弘光・柿沼昌夫・片桐猛 (55年度卒) 伊達操・永野雅彦・土井幸雄・矢畑誠之・小出博・長谷川正・村松洋志・迫田晋一・天田勝正 (56年度卒) 小林俊文・相原哲・岡田尚章・野村哲也・山本博英・岡村武昭・齊藤吉彦・林哲男・君島孝幸・長崎誠・阿保秀樹・高塚幸秀・吉村公利・岩崎英美・佐藤孝造・濱屋泰愛・林久裕・松山茂樹・見上真司・伊藤和彦・井戸真介・遠藤謙治・国川健・遠藤秋男・須藤勇 (57年度卒) 植松隆徳・梅村敦・大上悦夫・大山鋼造・小澤弘之・下山昭弘・藤森峰夫・宮城島保・山田好夫・阿部川晋也・内村龍男・大谷秀俊・村松昌明・渡辺良幸・上村吉雄・川勝誠・桐山延夫・中山淳一・羽持博・半田雅浩・丸山精一・小椋立夫・川上一仁・佐久間淳・近泰俊・鳥羽正彦・中原健次郎・永井則雄・成嶋雅彦・丸山直樹・由村泰延・石山博義・黒木昭房・中川卓美・中根将俊・細田雅昭・柳沢豊・近藤正一・鶴和博・平野剛・峯和良・伊藤聖一・小平路夫・齋藤稔 (58年度卒) 赤能透・阿部典行・石野圭二・大村浩・上岡千代吉・小林規人・近藤重彦・佐藤上・鎮目泰人・新堀浩・高橋秀俊・和田公孝・瀬堂川雅之・大森次夫・戸村誠一・長沢良明・矢坂裕俊・山口龍二・山本洋之・小野一弘・中矢均・伊藤達也・金本和喜・木口明久・久我範夫・久野正雄・小竹章司・後藤真一・佐瀬文彦・佐藤護・杉本秀昭・底勝彦・

谷井真人・永田新一・本間昇・森下一良・森本健治・谷澤進一・鎗田浩明・大川勉・小林史昌・加藤公一・日下部哲也・熊谷功・小宮裕司・杉山茂・鈴木実一郎・福岡陽・藤田美明・村松芳紀・森本博・吉原浩之・松原哲治・両角智弘・山下浩行・青山正樹・奥山理志・菊地正則・岸部英彦・小林清樹・佐々木秀一・野原守・堀内大生・松井隆之・福場誠一郎・斎藤英生・鈴木俊彦・大西光龍・勝雅彦・河合澄・米満修司・茨城幸一・川崎広紀・小島浩・田島浩一・森雅人・渡辺伸一 (59年度卒) 阿部隆一・竹内俊介・赤司宏之・荒川淳・石川直治・榎本由美・大島義也・奥田貴裕・小野瀬成夫・片柳菊則・北口浩司・熊倉淳・小島享司・桜井浩・関口耕平・中里健二・林賢蔵・日高幸正・平元直樹・伏見聡・堀尾類治・松井秀行・松田直浩・松本慎之・水野直樹・柳沢康雄・秋島一之・足立淳・阿部信行・遠藤道昭・岡村良信・小美野博・片山薫・小林清志・桜内康司・武田文彰・田中学・遠山豊・中島賢司・浜浩平・平井敬祐・深沢隆仁・山井裕二・渡辺淳・後村誠司・今村和弥・小原弘司・加藤英文・神山淳一・菊池崇・小林洋平・斎藤広治・佐野真司・高橋誠・竹林伸・塚本修市・松岡宏明・最上敏正・盛英憲・山下道義・山本高志・草薙兼成・旭浩義・藤田卓・秋田誠直・阿部真人・安藤幹浩・安納晴揮・犬飼春樹・大石豊・南雲浩之・西尾・花田研二・平田孝明・松尾秀生・荒木誠・犬飼均・照屋盛実・橋本昇二・集田善志夫・原山幸彦・松本浩・矢嶋大助・山内康裕・渡辺貴之・

一年会費

(39年度卒) 石川義一・小清水隆一・中沢茂 (40年度卒) 今泉直樹・篠崎哲郎 (41年度卒) 井上晃・大石昌司



KANOMAX 日本カノマックス株式会社



計測・制御

本社 大阪府吹田市清水2番1号(〒565) TEL.(06)877-0444 TELEX.5286210 FAX.(06)877-8263 横浜営業所 横浜市中区不老町3-13-3(〒231) TEL.(045)662-4571

“若い力”を求めます!!

躍進するレグセルは会社を創造しています。各部門(技術、設計、企画、業務、製造、営業、総務、経理etc)で若い責任者が育っています。



レグセル工業株式会社

資本金 4,000万円 代表取締役 河西正彦 (昭和41年度機械卒)

製造品目 機械関係 : 産業用ロボットマシン、各種省力機械及び装置 金型関係 : トラスファープレス型、順送プレス型、特殊省力型 金属関係 : 放電加工用タンクステン系合金、強電用電気接点

本相模原営業所 〒228 神奈川県相模原市東林間6-20-15 ☎0427(45)6485(代) FAX 0427(42)5120 埼玉営業所 〒330 埼玉県大宮市宮原4-1-9 ☎0486(67)4045(代) FAX 0486(67)0864 藤沢工場 〒252 神奈川県綾瀬市上土橋701 ☎0467(77)0371(代) FAX 0467(76)7854

(当社は東海大学卒業生で設立された会社です)

・山際鉄太郎・山本芳明・(42年度卒)折田正昭・永井圭介・西嶋賢三・田中栄三・(43年度卒)寺本憲雄・新井孝利・白畑完一・(44年度卒)海老原明・神野章・(45年度卒)岩崎文雄・小川清一・菅原邦恭・平井繁己・渡辺宣幸・岡本満・(46年度卒)阿部俊司・岸修・高橋義光・(47年度卒)斎藤俊次・鈴木隆男・千葉繁・中島毛矢・加藤康夫・(48年度卒)大矢恵一・飛田章・(49年度卒)寺内修・野中功・横山康晴・(50年度卒)入沢達哉・(51年度卒)藤村雅和・(52年度卒)安斎享・佐々木隆・塚田徳義・武重正彦・島崎政雄・(53年度卒)須藤希助・石沢則昭・(54年度卒)青木聡・伊藤守男・小島和明・金内由紀夫・(55年度卒)板垣雅彦・佐藤健一・高波喜八郎・西園修・岡野良男・鈴木基泰・須沢明広・(56年度卒)荒井俊雄・飯野聡彦・石塚健司・岩崎直彦・上原晃・大竹正之・沖川悦三・長田真悟・川鍋真司・菅野亮介・北浦幸一郎・九嶋智・小山博公・嵯峨野達也・佐藤光広・関根紀明・高橋哲・高橋洋一・中村宗二・根立悟・原科正彦・深谷清二・藤掛雅彦・細谷則幸・山崎国憲・山中毅・吉田純一・郭嘉龍・羽生高明・南野利之・青山恒雄・浅田哲夫・荒川泰行・飯山護・石井勝三・石綿俊哉・伊藤源一郎・植松裕・遠藤彰・大槻泰生・奥畑範之・小幡岳巳・金子基之・川崎浩・木口雅司・木下哉・小林明・佐川次男・高橋篤・高宮淳・西尾正広・野口正幸・野元茂・長谷川由明・藤本清文・松本良一・宮地俊郎・森太・矢部雅信・若生直人・妹尾一宏・村山智秀・小松崎忠・安藤正文・伊藤修己・泉銀蔵・稲崎豊・岩本利彦・内田正博・遠藤真二・大鶴啓一・岡本近・奥村寛二・加賀浩・鴨志田清高・川下康宏・岸昌夫・窪寺千尋・見目直信・小島佐海・小林道郎・斎藤吏明・境隆・佐藤重忠・塩谷一郎・嶋野雅昭・鈴木伸一・高橋克之・高谷勉・谷上誠之介・中

谷孝司・野地勉・橋本栄司・高山丈正・平田和彦・星克則・堀江雅人・松浦靖・松本克治・三樹正之・森山幸治・山内卓・山崎美・山本晃市・吉原杜一・坪口光春・南勝正・清水靖・武末功・石川正洋・井田誠一・今関康裕・海野久元・太田明秀・大林伸嘉・岡崎義明・小倉豊弘・小野純・柿沼博志・金井幹男・唐戸裕二・川本昌司・菊池理・草島秀幸・小平一秋・斎藤達朗・鴨原寛・清水敦夫・鈴木正彦・高橋真貴雄・高柳俊洋・玉城善行・津田孝司・徳永具洋・中野浩哉・灘上敦志・沼田尚・長谷川晃一・本間聡・松浦裕二・森谷徹・八幡仁・山口隆士・山田昌宏・横山隆仁・小林真樹・大洞正志・丸茂康弘・横堀茂幸・水上敏・飯牟礼浩一・大久保勲・小山匡・佐藤重仁・庄司俊彦・小路英之・進藤和弘・高橋慎一・高橋伸彰・高橋和・千葉秋生・鶴野兄弟・西野一広・西村幸夫・橋本政則・高山篤志・本村和也・山名徹美・広岡一郎・石井一成・石井茂・和佐忠治・松永利治・安部一八・梶島良章・中村晃・肥後憲一・武藤大治・佐藤博明・芹田正利・滝浪章・中村晃・肥後憲一・武藤大治・香椎悦雄・川元秀彦・穂山幸一・伊藤茂男・岩切忠・大和田孝男・小野浩徳・斎藤喜成・庄司房男・瀬藤武・塚田二郎・堀内芳宏・(57年度卒)加藤利昭・小竹俊雄・橋本勇二・早川浩道・樋口秀樹・吉國雅人・宮崎勉・岡本雅裕・菊地正人・清嶺秀隆・芹沢克己・蜂屋可樹・日暮徹・宮嶋洋一・吉田連・鈴木俊哉・荒木昌美・石崎由紀夫・岩瀬智彦・内山昌洋・大橋政明・姉崎真素行・栗林幸弘・酒川佳・佐々木孝人・島田工・鈴木忠雄・高平雅昭・戸島和彦・根津靖人・広沢雄・藤野芳樹・松浦一浩・宮本政明・望月直己・山下弘・山本清隆・吉川和彦・渡辺修一・辻和男・福山真樹・浅野高弘・安藤嘉英・石原英明・打樋一博・大畑康之・亀井孝利・神田久・北原満也・金健國・熊田誠一・笹本厚志・佐藤康晴・清水浩樹・鈴木利明・清田純一・高木浩一・瀧本隆裕・早川旭・比嘉栄二・廣瀬好夫・牧下裕之・宮城安利・山本哲三・渡辺浩志・高橋晃二・羽田明則・穴金晋二・阿部俊哉・永山洋介・西村健治・三ツ野謙・村山司・吉田健・渡辺裕之・安達慎一・宇野伸二・上條昭彦・重松浩二・白井勇・寺川邦芳・古沢彰近・松江浩喜・松本宏・間宮清・金原副清・川西富雄・篠崎光彦・野崎清・松原恒治・宮田勇人・村上和彦・森常樹・松永孝・高辻孝二・(58年度卒)板垣敦・伊東潤・糸賀康雄・岩瀬潔・及川清和・大塚稔・糟屋正範・河原井徳彦・北村昭夫・高下裕史・斎藤浩之・佐々木政広・鈴木浩司・鈴木芳文・武本圭治・田中政一・土田朗・中田貴志・沼崎孝元・原田務・星野光弘・松本佳輔・緑川功・山根敬一郎・吉川淳・米永尚史・

東海大学機友会昭和59年度会計報告

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,956,541	事務局経費	173,770
昭和58年度生会費納入金	642,000	会報(2・3号)発行事業経費	600,925
既卒者会費納入金	81,640	会報(2号)発送作業及び郵送経費	355,685
会報2号掲載広告料	49,930	代議員会・幹事会経費	69,560
昭和59年度生会費納入金	600,000	卒業生勧誘事業経費	87,150
銀行預金利息	23,831	総会開催準備経費	115,456
		雑費(総会補助金)	50,050
		次年度繰越金	1,901,346
合計	3,353,942	合計	3,353,942

昭和61年2月15日

上記監査の結果、相違の無い事を認める

監査

佐々木 彰
鈴木 良幸

青木靖・村田省三・浅井徹也・飯塚慶一・池田稔・猪野知幸・岩田浩明・内川和彦・近江佳明・長田厚・各務史朗・神藤定幸・木村隆之・国崎信喜・桑子祥雄・越野茂昭・佐藤正博・志摩宏治・菅原勝・鈴木孝明・須谷馨路・添田光典・高橋裕実・田中紀美彦・西村秀規・根本茂・林修二・原田望・平野豊・堀江滋彦・本間直樹・松井隆弘・丸山敏浩・森近賢治・和田裕章・伊藤敏樹・有吉正樹・槻義彦・島田弘毅・高須真志・林和仁・安達雅彦・有吉正孝・飯田昭雄・大畑伸夫・金子修・奥田徳久・金子政弘・後藤宏美・田澤徳博

大学院卒

(十年会費) 小島正美・粕谷平和・中園与一・(一年会費) 宇都英樹・柳漢貞

祝卒業・機友会賞の贈呈

昭和六十年度卒業式が三月二十五日湘南校舎で行われ、動力機械工学科は二六九名、第二工学部機械工学科は十八名、大学院工学研究科機械工学専攻十二名が目出たく卒業されました。卒業のお祝いを申し上げますとともに、今後の活躍を大いに期待いたしてあります。また卒業後は機友会の一員としてお互いに力を合わせてやっていきましょう。

ところで卒業式には本会から、河西正彦副会長、大原順夫副会長、岡田隆夫幹事、堀田和成幹事、大矢暁幹事の計五名が出席し、五氏は式終了後、卒業生のうち、「勉学によく励むとともに同窓生の団結に多大の貢献をされた」左記の諸兄に機友会賞を贈呈しました。

佐藤正行、天野五輪郎、海藤祐二、西村潔茂、古田賢司、織笠一浩、松永慎紀、下司祐造、古田賢一、赤木武士、新田浩典、菊田克也、内藤高明、篠田純一、中原久、石井靖幸、神林豊志、栗村明、山本康伸、今井敏幸、岸義明、山口英樹、安間稔、渡辺正弘、新村雅彦、松丸義久、鈴木精三、高橋恒輔、金子達也、山越章司、荒井義純、原一哲、

記事募集

次号は六十二年度末に発行の予定です。在学時代の思い出、日頃考えていること、同窓会に望むこと、仕事のこと、会社のPRなどどんな内容でも結構です。皆様からの投稿をお待ちしています。

十二号館落成式

前号および会員名簿で写真入りでご紹介した十二号館の落成式が十月六日に行なわれました。動力機械工学科は研究室が六階、実験室が階にすべてとまりました。同窓生の皆様是非一度新しい動力機械工学科に遊びに行ってみましょう！



各種試験機器模型製作
精密機械機具設計製作
光学機械設計製作

今井工業株式会社

〒176 東京都練馬区氷川台3-36-20
電話 03(931)8403

機械・電気 設計者募集

省力化、無人化装置のバイオニア!!
半導体生産設備、Tr・IC・SCR等の測定装置およびXYZθ微動装置等の設計製造

フェイム株式会社

清原 秀明 (48年度卒)
工場 〒192 東京都八王子市美山町1253
☎ 0426-51-7781(代)

編集後記

予告通り「副学長を囲んで」を記事にすることができました。これほどに苦勞を重ねながらも、懲りずに岡田恵子さんが原稿を作成してくれたおかげです。

名ばかりの編集、にもかかわらず、こうして四号を発行できますのも、信友印刷の大矢暁氏がすべて引受けて下さった賜物です。

予定通り事が進行しない難しさを抱えての発行になってしまいました。次号こそは……。

T.O

自動車部品製造業

日新工業株式会社

取締役社長 安藤忠夫 本社工場・神奈川県大和市上草柳172番地
TEL 0462(64)1221 代表

企画 ■ 写植
編集 ■ 製版
デザイン制作 ■ 印刷

〒108 東京都港区白金1-7-20
信友印刷株式会社
TEL 03-444-2481(代) FAX 03-444-2482